紡ぐ
くらしの
情報誌

バリバリ通信

2025 SPRING
VOL.127

よみがえる江戸時代の雄姿

大洲城　愛媛県大洲市大洲903番地 TEL.0893-24-1146
●観覧時間／9:00～17:00 ※入館16:30まで ●休館日／無休 ●観覧料／大人550円・中学生以下220円
●駐車場／有り（70台）※市民会館駐車場（有料）または観光駐車場（無料）

「大洲城」

愛媛県大洲市

歴史と市民の誇りが息づく大洲城

大洲城の起源は、鎌倉時代末期に築かれた地蔵ケ岳城といわれる。その後、近世初頭に大洲を治めた小早川隆景をはじめ、戸田勝隆、藤堂高虎、脇坂安治、加藤貞泰ら歴代の大名による造営を経て、近世城郭が整備された。加藤家の居城として十三代にわたり繁栄したが、明治二十一（一八八八）年に天守が取り壊され、その姿は失われた。

天守の消失を惜しむ地元住民の声は多く、長年にわたり郷土史家や研究者たちによる天守の調査・記録が進められてきたそうだ。平成六（一九九四）年に大洲城天守閣復元委員会が発足、約十年の歳月をかけて、平成十六（二〇〇四）年、ついに大洲城の天守が復元された。それは単なる再建ではなく、当時の伝統工法を忠実に再現した木造復元であり、歴史的価値の高い事業であった。

復元にあたっては、大洲藩の作事方棟梁であった中野家に伝わる天守の木組模型が、構造を解明するうえで重要な手がかりとなった。また、江戸時代の古絵図や、明治時代に三方向から撮影された写真が残っていたことも大きな助けとなった。奇跡的に揃った貴重な資料と精密な研究、そして地元住民の熱意が結実し、百十六年の時を経て、ついに大洲城の天守はよみがえったのである。

●南隅櫓／現存する「三の丸南隅櫓」内は見学可能。園内の「旧加藤家住宅主屋」はNIPPONIA　HOTELとして宿泊できる

●天守内部／再現天守の内部。1階と2階は吹き抜け構造になっている。

戦後に木造で復元された四層四階の天守としては日本初であり、その高さ十九・一五mは全国でも類を見ない。復元には、かつて大洲藩の菩提寺であった如法寺から伐り出された樹齢二百五十年の檜が使用され、心柱を貫く重要な構造材となっている。

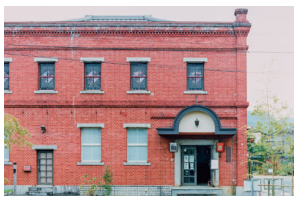
使用された木材はすべて国産材で、天守の内部に足を踏み入れれば、城郭建築特有の迫力ある木組に圧倒されるだろう。現在、大洲城では復元された天守のほか、江戸時代から現存する四棟の櫓（国の重要文化財）を見学することができる。

この大洲城、宿泊ができることをご存知だろうか。現在、大洲城では日本初の天守での宿泊体験「大洲城キャッスルステイ」を提供している。法螺貝の音が響き渡り、鉄砲隊が出迎える壮大な演出のもと、加藤貞泰の入城を再現。大洲が誇る伝統芸能鑑賞も用意される。夕食は、現存する櫓内で供され、地元産の厳選素材を使った伝統料理に現代のアレンジを加えた「殿様の献立」を楽しめる。朝食は、数寄屋建築の傑作「臥龍山荘」を貸し切りで。大洲城主のひとときを追体験する、

●木組みの模型／
江戸時代の木組模型を参考に作られたもの。実物の天守の1/10サイズ。

四国ガス燃料
https://www.shikoku-gasnen.co.jp/

●思ひ出倉庫／ポコペン横丁の奥にある古い蔵の中に昭和30年代をテーマにしたレトロ空間が広がる。



●おおず赤煉瓦館／大洲商業銀行本店として建てられた和洋折衷の建物。館内には特産品販売所や資料館がある。

●おはなはん通り／藩政時代、城下町の中心地としてにぎわった通り。当時の土蔵が並び、風情ある街並みが続く。

●NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町／古民家を活用した分散型ホテル。

夢のような宿泊プランは世界中から注目を集め、年間二十件ほどの予約があるそうだ。

また、大洲城下では、町全体をひとつのホテルに見立てた「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」が展開されており、歴史ある町並みを巡りながら滞在できる新たな観光スタイルが話題となっている。豪商の邸宅や町家、蔵などがリノベーションされ、宿泊棟やレストラン、フロントとして点在する。ひとつの建物内で完結せず、旅人が町全体を回遊し、さまざまな店舗や施設を利用する機会が増えることで経済効果が期待できる。また、一極集中を避け、観光公害を軽減できるというメリットもあるようだ。

しかし、これまでの道のりは決して平坦ではなかったという。二〇一〇年から二〇一七年にかけて、大洲の城下町では所有者の高齢化や相続問題、修繕費の増大により、建物の維持が困難になるケースが相次ぎ、古い建物の取り壊しや空き家としての放置が進んでいた。歴史的建造物が失われ、町並みの景観が変わる危機に直面していたのである。

この状況に危機感を抱いた大洲市は、地元金融機関と協力し、歴史資源を活用した観光振興の研究を開始。全国の事例を調べる中で、丹波篠山市の古民家再生の取り組みに注目した。そこで、行政と民間が協力して歴史のある建物を修繕して活用し、「泊まって楽しむ」観光スタイルにシフトすることを決めた。

大洲市の出資で、観光地域経営組織を立ち上げ、さらに不動産株式会社を設立。古民家などを改修し、賃貸、管理を行い、その収益の一部を還元するという独自の仕組みをつくり上げたのだ。再生された歴史的建造物は、宿泊施設以外にもカフェや雑貨店としても活用されている。

戦火を免れ、今もなお昔ながらの面影を残す大洲の城下町。「伊予の小京都」と称され、古き良き町並みが旅人を優しく迎えてきた。おはなはん通り、臥龍山荘、おおず赤煉瓦館、ポコペン横丁、思ひ出倉庫——それぞれの名所が、時を重ねた物語を静かに語りかける。

ゆったりと流れる時間のなか、歩を進めるほどに深まる趣。「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」の暖簾がそよ風に揺れ、人々の暮らしにそっと溶け込んでいた。四季折々の風情が訪れる人の心を包み込み、新たな息吹を宿した町を、大洲城が静かに、そして誇らしげに見守っている。

お立ち寄りスポット

ehime waku waku spot

臥龍山荘

肱川随一の景勝地、臥龍淵を臨む数寄屋造りの山荘。大洲出身の豪商河内寅次郎が10年余をかけて造り上げた。肱川を借景とした庭と凝った造りの建物は必見。国の重要文化財に指定。

愛媛県大洲市大洲411-2 TEL.0893-24-3759
開館時間／9:00~17:00 ※入館16:30まで
休館日／無休
観覧料／大人550円・中学生以下220円

おみやげ紹介